

どんないのちも
たからもの

小 二

ぼくは虫が大すきです。ぼくの家のには、たくさんバツタがいます。ぼくはよく、バツタをつかまえて、虫かごやびんに入れて家の中でかっ
ていました。

一年生のとき、道とくのべん強で、どんな生きものにも大切ないのちがあり、「どんないのちもたからもの」とい

うことを知りました。ぼくはそのべん強をして、いつもたくさんつかまえているバツタのことを思い出し、心がズキンとしました。「ぼくがバツタのいのちをうばってしまっているかもしれない。」と心
ぽいになったからです。

ぼくは家に帰って、すぐに虫かごの中のバツタを、わににがしました。夜になっても、つかまえたバツタのことが心ぱいで、心の中で何ども「バツタさん、ごめんね。なかまのところにはぶじに帰って

ね。」と言っていました。

ぼくはその日から、バツタをつかまえても、すぐににがしてきます。バツタにも、ぼくと同じように大切なのちがあるからです。ぼくとバツタの体の大きさはちがうけれど、いのちの大きさは同じです。

二年生になって、ぼくはたくさんの友だちができました。これからも、「どんないのちもたからもの」ということばをわすれずに、だれにでもやさしくしたいです。もし、友

だちにいじわるしている子を見かけたら、「どんないのちもたからものだよ。だから、やさしくしよう。」と教えたいです。そして、クラス中にもやさしい気もちが広がり、今よりもっともつとなかよしなクラスになるといいと思います。